

地域別環境懇談会 〔佐原〕地区

日 時	平成25年 9月19日(木)
場 所	香取市役所 5階 大会議室
出 席 者	大友環境安全課長、高木班長、並木主査、太田主任主事、京増主事、大平主事、日本工営(株)松永部長、渡辺技術士 (参加者65人)

1) 地域で残しておきたい自然、改善したい環境について

○地域で残しておきたい自然について

- 十間川沿いの桜並木について、木が古くなってしまっているので新しいものへ植え替える等対応をしてほしい。
- 道の駅周辺の利根川のヨシ原を野鳥観察の場として整備してほしい。
- ホタルの生息地として関地区

○改善したい環境について

- 大須賀川桜並木のマツダ自動車側が汚いままになっている。公園等を整備してほしい。
- JR鹿島線高架下の雑草について草刈りの回数を増やしてほしい。
- 小野川への汚水排出について(上流の佐原小学校の辺りでは生活排水や雑排水を下水につながず垂れ流しにしているのではないか。またさらに上流の工業団地から廃液が流れているのではないか。)
- 津宮の水路の水質汚濁
- PM2.5、鹿島臨海工業地帯の測定局について佐原旧市街にも設置してほしい。
- 国道356号線沿いの大気汚染についてバイパスの設置等対策をしてほしい。
- ポイ捨て禁止条例の制定について
⇒罰則規定はないが、ポイ捨てについて規定した香取市環境美化条例は制定済みである。
- 地下水、湧き水についてどこにどのような井戸、湧き水があるかの調査を行い、飲用できる水なのかということ等を表記してほしい。
- 釣りに来る人のマナーが悪い。(ゴミのポイ捨て等)またこの河川にはこういった生物が生息しているか等の看板を立ててほしい。

2) 震災以降の環境や生活の変化について

- 小野川の下流が狭まってしまった。(狭まった分川横の土の部分が広がり雑草が生えてしまっている)
- 十間川の生態系が変化してしまった。
- 中江間水路が600m程崩れてしまっている。また、水深が浅くなってしまい、観光船に10人乗せたら船外機が底についてしまう状況になってしまっている。
- 下川岸小野川に白鳥が生息するようになった。(コブハクチョウ)
- 小野川の整備工事現場に完成イメージ看板があるが、この通りにはならないといわれた。(看板では遊歩道になっているが実際には砂利道になる。)

3) 環境に関する市民協働について

- 北佐原住民自治協議会通学路の草刈りやゴミ拾いを行っている。（行政だけの対応ではなく住民と行政とが協働した取組が重要となっている。）

4) 地域の活動の核となる人やグループについて

- かとり市民環境ネットワーク（里山整備、ゴミ拾い、水質・大気の調査を行っている。）

5) その他

- 水生植物園によしすが設置されており、花の生育状況について確認できなくなっている。
- 道の駅下の小野川放水路周辺に水生植物園を持ってきてはどうか。
- 地球温暖化対策について香取市としての指針を出してほしい。
- 「香取の森」の貴重な動植物はニリンソウの群落ではないか。西坂の森についてはニュータウンができてしまい、貴重な動植物の分布というより、寺社林として景観がいいだけとなっている。
- 佐原駅前ロータリーにからくり時計を設置してほしい。
- アンケートについて、佐原地区全体というだけではなく、市街地や水田地帯等の地区別の特徴についても掘り下げて分析してほしい。
⇒今回のアンケートについて4地区のみの区分となっており、これ以上掘り下げた分析はできないが、次回実施時には考慮できるよう意見を記録しておく。
- 今回の懇談会の内容について参加者に配布し、情報の共有をしてほしい。
⇒今回の内容について参加者の方には情報をお渡しするようにしたい。
- 行き当たりばったりではなく、こうした懇談会を頻繁に行い、課題を絞っていけば問題の解決ができるのではないか。
- ゴミ袋の値段は近隣の市町村と比較して高いのではないか。
⇒成田市と比較して値段は高くなっているが、旭市や匝瑳市と比較すると同程度である。
- 焼却残渣・不燃ごみのリサイクルできない部分・病院からの廃棄物についてどのように最終処分しているのか。
⇒焼却残渣・不燃ごみ残渣について処理場横の最終処分場にて間違いなく埋立処分を行っている。病院からのゴミについては産業廃棄物となるので県の管轄である。